

「次世代につなぐ 輝くちばへのチャレンジ」 (平成29年度～令和2年度) について

前総合計画「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」(平成29年度～令和2年度)の施策の実施に当たっては、「次世代につなぐ輝くちばへのチャレンジ」として掲げた将来を見据えた横断的な視点を持って取り組んでまいりました。

1 次世代につなぐ輝くちばへのチャレンジ

前総合計画では施策の実施に当たっての横断的視点について、次のように記載していました。

総合計画の各施策の実施に当たっては、「次世代につなぐ輝くちばへのチャレンジ」に掲げた4つの横断的視点を持って取り組むとともに、相乗的な成果や好循環につながる先導的取組を庁内各部署で共有するほか、市町村や県民、企業、大学をはじめ様々な関係者へ幅広く示していくなどして、地域の自立的な課題解決能力の向上につなげていくこととしています。

【4つの横断的視点】



2 チャレンジの推進について

チャレンジについて、平成30年度に開催した千葉県総合計画の政策評価に関する有識者懇談会において、次のように推進することを説明しました。(配付資料の抜粋)

(1) 横断的な視点を持った取組の実現に向けて

4つの横断的な視点ごとに喫緊の対応が求められる「政策課題」を設定し、横断的視点の下での各施策の整理・検討を行うとともに、さらなる課題について相乗的な成果や好循環につながる先導的取組の実現に向けた検討を進めていきます。

4つの横断的視点	政策課題
急激な人口減少・少子化への歯止め	・千葉県を支える人づくり
超高齢社会への対応	・移動困難者を地域で支える仕組みづくり
交流基盤・ネットワークの整備・活用	・成田空港やアクアライン・圏央道等を活用した地域づくり
国内外への魅力発信	・「行きたい」「買いたい」「住みたい」という具体的な行動を誘発する魅力発信 ・県民が地域に愛着を持てる魅力づくり

(2) チャレンジの推進体制

課題や取組等の整理・検討に当たっては、政策室長会議を「総合計画推進チーム」と位置づけ、下部組織として4つの政策課題ごとに各部署主管課の中堅職員で構成される「総合計画推進ワーキング(庁内WG)」を設置し、今後の検討課題の整理や課題認識の共有を図ります。

3 まとめ

(1) 取組経過

- ・庁内WGにおいては、企画担当が中心となって各施策や論点を整理し、4つの横断的な視点に基づく取組の意見交換を実施しました。
- ・特に、横断的な視点の一つである「急激な人口減少・少子化への歯止め」において政策課題として設定した「千葉県を支える人づくり」の取組である外国人材受入れについて、国における新たな在留資格の創設の動き等を踏まえ、情報共有や意見交換を行い、平成30年度には、ベトナムとの人材の育成及び受入れに係る覚書の締結などを実施しました。
- ・令和元年10月以降は、令和元年房総半島台風等の災害や新型コロナウイルス感染症、高病原性鳥インフルエンザに係る対応業務等が相次いで発生し、全庁的な応援体制が必要となったことなどにより、庁内WGを開催することができませんでした。

(2) 結果

- ・台風等の自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大等による緊急事態における対応に全庁を挙げて取り組んだことに伴い、庁内WGについて令和元年10月以降開催できなかったため、庁内WGを通じての新たな取組の立案・実施等には至りませんでした。
- ・一方、庁内WGにおいて、4つの横断的な視点に関連した取組事例について共有を図ったことから、緊急事態における対応を行いながらも、関係課において横断的な視点を持って連携して取組を実施することができました。

(3) 今後の取組に向けて

- ・新たな総合計画においては、各分野の取組に広く関係するSDGsやカーボンニュートラルの推進などを「施策横断的な視点」として位置付けたところです。
- ・複数の分野にまたがる課題に的確に対応するためには、関係部局が連携した施策の推進が重要であることから、必要に応じてプロジェクトチームの設置などを検討します。
- ・なお、庁内連携の推進に当たっては、今回の結果も踏まえ、更なる工夫に努めます。